

2020.8
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

8 号

第42巻
No.373



キンミズヒキ *Agrimonia pilosa* Ledebour. (バラ科 *Rosaceae*)

生 薬 リュウガソウ（竜牙草） 夏、開花前に地上部を刈り取り陽乾する。

成 分 フェノール：agrimonol、イソクマリン：agrimonolide、フラボノイド配糖体：cynaroside, apigetrin、タンニン：agrimoniin、カテキン：pilosanol A, B, C など。

効 能 止血、止瀉、消炎、強壮薬として下痢、吐血、鼻血、血便、血尿、性器出血、下痢に赤白の膿血が混じる症状などに応用する。口内炎歯茎の腫れ、咽喉炎に煎じた汁でうがいをする。

生薬 リュウガソウ（竜牙草）

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



北海道から沖縄まで日本全国やヨーロッパ東部からヒマラヤ、中国、台湾、インドシナ、朝鮮半島、シベリア、サハリン、ウスリーなどユーラシア大陸のほぼ全域に広く分布し、草丈50–150cmになる多年性草本です。春先に出る若芽は山菜としてお浸しや汁の実、和え物に重宝されます。葉は奇数羽状複葉で互生し、托葉が2枚あります。小葉は3–9枚で長楕円形から楕円形で縁は鋭い鋸歯があり、多数の黄色い腺点を持ちます。また全体に白く長い柔毛に覆われていることが種小名*pilosa*（軟毛のある）の語源になっています。夏から秋に長さ10–20cmの総状花序を頂生または腋生し、黄色の5弁花を多数咲かせます。この細長く黄色い花穂が黄色の水引に見えるところからキンミズヒキ（金水引）の名が付きました。果実は3mmほどで宿存萼の内側に包まれ、その萼の縁に鋭く内側に曲がった鉤状の刺毛があります。この刺が衣類や動物の毛に付きやすく種子の散布を助け、ギリシャ語のargemone（花に刺の多い）から属学名*Agrimonia*となりました。近縁植物に本州、四国、九州に分布するヒメキンミズヒキ（*A. nipponica*）やウスリー中国東北部朝鮮半島に分布するチョウセンキンミズヒキ（*A. coreana*）などがあります。

中国において龍牙草の名が最初に出てくるのは『図経本草』（1062）で「施州龍牙草」の名が見られますが、はっきりと龍牙草がキンミズヒキであることを示しているのは『救荒本草』（1406）で、「龍芽草、一名瓜香草、輝縣鴨子口の山野の間に生ずる。苗の高さ一尺余り、茎に洪毛多く、葉形は地棠（ヤマブキ *Kerria japonica*）葉のようでしかも寛大である。葉頭は齊しく円く、五葉或いは七葉ごとに一茎を作り、排生する。葉茎の脚上にまた小芽葉があつて、両々対生する。梢間に穂を出し、五弁の小円状の黄花を開き、青毛のある骨突を結実する。種子の大きさは黍粒の如くで、味は甘い。救飢には、その種子を収め取り、搗くか磨して麴に作って食べる」とキンミズヒキの形態をよく表し、付図も明らかにキンミズヒキを示しています。加えて種子を救荒食として用いることを記しています。『本草綱目拾遺』（1765）の「石打穿」の項に「龍芽草は山土に生ずる。立夏の時に発苗して地に布き、葉には微毛が起こつていて、茎は高さ一、二尺、寒露の時に花を開いて穂に成り、色は黄で細く小さく、根は白芽があつて尖つて円く、龍牙に似て頂に黄花を開くところから金頂龍芽と名け」とあり、根から出る白い芽を龍の牙に例え、黄色の花が穂状に咲く様子を金頂と云い、金頂龍芽（キンミズヒキ）と名づけたことが記されています。

日本の本草書に登場するのは意外に遅く、『本草綱目啓蒙』（1803）に「龍牙草は即ち救荒本草の龍牙草、一名瓜香草なり。和名キンミズヒキ、又シシヤキグサ、クソボコリ、とも云う。葉は紫藤（*Wisteria floribunda*）葉の如にして鋸歯あり。初は叢生して地に就く。夏月、茎を抽して二、三尺許。其の末一尺許は穂にして五弁の黄花を開く。大さ三分許。実、緑色。大さ椒の如く毛刺あり。熟すれば人衣に粘す」と記され、『和蘭藥鏡』（1820）には種々の用い方や効能が詳しく記されています。

アフガニスタンからヨーロッパにかけて分布するアグリモニー（*A. eupatoria*）はセイヨウキンミズヒキの和名が付けられ、キンミズヒキによく似ていて草丈は40–100cmほどではほぼ同じですが、葉や茎に粗毛が密生し、花期は7–10月と長く、結実すると萼が大きくなり、鉤棘のある7mmほどの大きな果実をつけます。古代ギリシャでは有名な薬草で、ディオスコリデス（40–90）の『薬物誌』に「アルゲモネ（argemone）」の名で収載されています。現在でもアグリモニーティーとして、また含漱薬として用いています。

（村上守一 記）